

ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会ニュース

NO. 8 2021年10月8日 ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会

教育全国署名ではたやま和也候補（日本共産党）と懇談

9月から国会議員や総選挙候補者に教育全国署名の要請行動を開始しました。今回は立憲民主の国会議員と懇談内容を紹介し、今回の要請で、池田・松木議員に初めて紹介議員になっていただくなどの成果もあり、教育全国署名の要求内容が共感を広げています。

◆はたやま和也候補（元衆議院議員）

10月1日（金）、はたやま和也さんの事務所を訪問し、「ゆきとどいた教育」の要請を行いました。訪問したのは、事務局長の新保（道教組）と事務局次長の道端（道高教組）です。

私たちからは、全国の少人数学級一覧などの資料を渡し、国が決めた少人数学級が35人ではまだまだ不十分なこと、教員採用試験の受験者が減少していること、高校でも授業時数の確保が学校を窮屈にしていることなどを説明しました。はたやまさんは、共感して聞いていただきました。

はたやまさんからは、「私が中学校の教師をしていた頃（25年前頃）と、今では学校がずいぶん変わりましたね。私も部活動を終えて仕事に取りかかると夜の8時～9時になったかな。夏休みは部活がありましたが休みもありました」「共産党は教育政策を掲げているので、野党共闘の共通政策に教育問題も入ればなお良かったですね」とお話しされました。



懇談中のはたやま候補（左）

◆市町村への陳情・意見書採択の結果をお知らせします

全道の市町村に郵送による3つの意見書採択を要請し、10月6日現在、40の市町村議会から回答があり、10市町村で意見書が採択されました。西いぶり連絡会は、地元で要請をしていただき、3つの意見書が4市町で採択される成果が出ています。詳細については一覧をご覧ください。

3つの意見書案は、①「国の責任による『20人学級』を展望した少人数学級のさらなる前進」、②「特別支援学校の実効ある設置基準の策定及び特別支援学級の学級編制標準の改善」、③「大学生等への給付奨学金制度の拡充」を求める陳情と意見書（案）を送付しました。

東胆振では地元で

現在の採択結果	20人学級	特別支援	奨学金	
1、今金町	○	○	○	北海道連絡会で要請（要請文郵送）の結果 ↓ 西いぶり連絡会で要請の結果 ↓
2、松前町	○	○	○	
3、東川町			○	
4、天塩町	○	○		
5、更別村	○	○	○	
6、江差町	○	○		
7、剣淵町		○		
8、美深町		○	○	
9、占冠村		○		
10、古平町		○		
11、室蘭市	○	○	○	
12、登別市	○	○	○	
13、伊達市	○	○	○	
14、豊浦町	○	○	○	